

尻屋磯根資源調査

(要 約)

野呂 英樹・藤川 義一・高橋 宏和^{*1}・黄金崎 栄一^{*2}

目 的

尻屋沿岸の磯根資源の状況を把握し、造成漁場を含む地先漁場の管理に資する。

材料と方法

平成 23 年 6 月 9 日に、太平洋に面する尻屋沿岸に設けた 15 調査線上の計 65 調査点（水深 2.5m、5m、10m、15m、20m）で潜水し、海藻を 50cm または 1m 四方の枠で 1～2 枠分、底棲動物を 1m 四方 2 枠分採取し、種ごとに個体数と湿重量を求めた。底棲動物のうちエゾアワビについては、殻長を測定するとともに、貝殻螺頂部分の着色から人工種苗を判定した。採取されたキタムラサキウニのうち、漁獲サイズにある計 160 個について、生殖腺重量を測定し、生殖腺指数を求めた。

結果と考察

1. 2 年目マコンブ

2 年目マコンブは、前年の調査では全ての調査地点において採取されなかったが、本年の調査では生育密度は平均 8.6 本/m²であった。

2. 1 年目マコンブ

1 年目マコンブの生育密度は平均 44.1 本/m²と前年に比べ増加した。水深別では水深 2.5m で平均 83.5 本/m²、水深 5.0m では平均 94.7 本/m²、水深 10m では平均 37.6 本/m²であった。1 年目マコンブは平年並みに生育していたため、平成 24 年のコンブ漁は平年並みであると考えられた。

3. エゾアワビ

エゾアワビは、調査地点全体の 32% に相当する 21 地点から 39 個体が採取され、調査海域の南側に比較的多く生息していた。調査地点全体の生息密度は平年よりやや高い平均 0.44 個/m²で、水深別では水深 2.5～10m で平均 0.60 個/m²と高く、水深 15m 以深では平均 0.2 個体/m²以下に留まった。殻長 9cm 以上の漁獲サイズの個体は、全体の 28% で、前年の 30% とほぼ同様であった。一方、殻長 9cm 未満の個体が全体の 71% を占め、今後の漁獲加入が期待できた。

4. キタムラサキウニ

キタムラサキウニは、調査地点全体の 75.0% に相当する 51 地点で採取され、調査地点全体では生息密度が平均 5.1 個/m²、現存量が平均 456 g/m²であった。過去 10 年間では生育密度が平均 2.9 個/m²、現存量が平均 331 g/m²であったため、資源が増加したと考えられた。

*1 青森県農林水産部水産局水産振興課

*2 青森県西北地域県民局地域農林水産部鰯ヶ沢水産事務所

発表誌：平成 23 年度尻屋磯根資源調査結果報告書。（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所. 平成 23 年 7 月.